



神戸市民病院機構

ID管理を自動化!

手作業から確認作業中心に!

高品質な運用管理を実現!

地方独立行政法人神戸市民病院機構では、2023年のグループウェア導入時に課題であったIDの一元管理を視野にいれ、同時調達としてID管理製品であるADMS IDM(以下ADMS)を導入されました。2024年にはActive Directory(以下AD)との追加連携を行い、ID管理基盤としてADMSの利用範囲を拡大されています。今回、ADMSが同機構の課題へ大きく貢献があったとお声をいただいたため、ADMSの導入経緯やその効果を神戸市民病院機構法人本部のDX推進課の担当係長 城代様、原様に伺いました。



業種
医療機関

ユーザー数
無制限ライセンス(5000ユーザー)

URL
<https://www.kcho.jp/>

Point

- 経緯** グループウェア製品の導入時に、ID管理も必須要件とし、連携可能なID管理製品を検討していた。
- 導入** グループウェア提供企業からの提案があり、要件を満たすADMSの採用を決定。当初は人事システム(Company)を源泉データとし、グループウェアのみを連携先とする運用だったが、更なる課題解決を図るため、2024年にADへの連携を追加した。
- 効果** ADMSの導入により、ID管理に関する作業負荷の軽減と管理品質の向上を実現。従来の「手作業」中心のオペレーションから、「確認作業」中心の運用へと移行した。

神戸市民病院機構 プロフィール

地方独立行政法人神戸市民病院機構は、市民の生命と健康を守るという基本理念のもと、「中央市民病院」「西市民病院」「西神戸医療センター」「神戸アイセンター病院」の4病院体制で運営しています。各病院がそれぞれの専門性と強みを活かし、24時間体制の高度救急や最先端医療、地域に根差した医療など、市域全体の「最後の砦」としての役割を担っています。これら4病院が密接に連携することで、質の高い医療サービスを効率的に提供することを目指しています。

導入の背景について

グループウェアの導入に併せ、ID管理製品の導入を検討していました。背景には、ID管理に関する3つの課題がありました。

1つ目は、複数IDの問題です。2つの病院に所属する医師がそれぞれの病院で別々の職員番号・アカウントを持つ状況で、共通となるIDが存在しませんでした。そのため、認証・権限設定・システム利用時に煩雑さが生じ、セキュリティリスクも高まっていました。

2つ目は、手作業による非効率さとヒューマンエラーの問題です。同職員に対して複数システムでアカウントの登録・削除作業を繰り返す必要がありました。また、異動や入退職の対応が月末・年度末に集中し、残業で対応するほど作業負荷が高く、手作業によるミスも課題でした。

3つ目は、既存の人事系システムにおけるデータ整合性の問題です。

これらの課題を、ID管理製品の導入により解決できることを期待していました。

製品決定理由

グループウェアを提案していた導入会社より、ID管理製品としてADMSが提示されました。ID管理製品の選定は導入するグループウェアとの連携が必須条件であり、ADMSが条件を満たしていたことから採用を決定しました。

導入当初はグループウェアとの連携のみでしたが、ID管理全体の課題を解決するには、ADとの連携が必要であると考え、ADMSの活用範囲をAD連携にも拡張することにしました。

導入効果について

ADMSの導入により、ID管理に関する作業負荷の大幅な削減と、管理品質の向上を実現しました。

まず、作業負荷の観点では、導入前はシステムごとに月末や年度末に手作業でアカウント登録を行っていました。しかし導入後は、源泉データから各システムへ日次で自動反映できるようになり、業務は主に確認作業へと移行しました。その結果、業務負荷は体感できるほど大きく減少しました。加えて、副次的な効果として、新規・中途入職者が月末を待たずにシステムを利用できるようになりました。ADMSのメール通知機能も、異動情報の確認に役立っています。

次に、管理品質の向上という点では、人事システムのデータをADMS取り込み前に整形・統一し、エラー検知により不備を事前に把握できるようになったことで、データの整合性が向上し、IDの一元管理が実現しました。

さらに、ADMSのセルフメンテナンス機能により、ユーザー自身がパスワード変更を行える運用が可能になりました。5,000名規模のユーザーを抱えながらも、情報システム部門による個別対応を最小限に抑えつつ、各ユーザーが混乱なく運用できている点も高く評価しています。

弊社サポートについて

ジインズ社には、要件が固まっていない段階から当機構の「やりたいこと」を丁寧にヒアリングいただき、それらを実現可能な形で整理して提案いただいた点を高く評価しています。構築が始まってからは、メールレスポンスが早く、作業の進捗や調査状況もこまめに共有いただいたため、当機構としても非常に動きやすいと感じました。

また、グループウェア連携の安定化、AD連携の追加、パスワードポリシー対応など、運用上の課題をADMSによって順序立てて解消へ導く姿勢に対して、大きな信頼を寄せています。

弊社への要望

現在ADMSと連携可能なシステムは事務系システムに限られているため、将来的には電子カルテとの連携にも対応いただけることを期待しています。当機構としては、現時点で病院ネットワークの構成やセキュリティ上の制約により、実現に向けた検討段階にありますが、今後の拡張に期待しています。

さらに、ADMSの有用性を把握できるレポート機能の追加も望んでいます。全国的に病院経営が厳しい状況にある中、担当者にはADMSを含む各システムの有用性(投資対効果)を説明することが求められています。